



大久保小だより



学校教育目標 **かいっぱい かしく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

平成30年6月1日第3号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子147名女子121名計268名

みんなで、一人ひとりを大切に作る学校に

校長 金子 要一

先月26日に行われた運動会は、天候に恵まれ、また、多くの方々においでいただき実施しました。おかげさまで、みんな一生懸命頑張った素晴らしい運動会ができました。

さて、6月は「いじめ撲滅強化月間」です。そこで、一冊の本と一編の詩を紹介します。

まず、「ワンダー」という本です。一昨年の読書感想文コンクールの課題図書だったので、読んだ方もいらっしゃるでしょう。主人公のオーガストは、宇宙飛行士に憧れる普通の心をもった男の子です。でも、生まれつき目の位置が普通と違うなど顔に障害があり、入退院を繰り返したため学校に通えませんでした。それでも母親は、彼が5年生になる時、学校に行かせることにしたのです。学校に行くと、子どもたちは彼の顔をじろじろ見たり、病気が伝染するかのよう避けたり、悪口を言ったりして彼を傷つけました。彼の障害は伝染しないし、彼自身が人を傷つけるようなひどいことを言ったり、やったりはしていないにもかかわらずです。見た目が普通でないために、辛い思いをしたのです。でも彼は、負けませんでした。この続きは、学校の図書館にある本を読んでください。

さて、次に詩を紹介します。大正から昭和にかけて活動した、金子みすゞさんの詩です。

わたしと小鳥と鈴と

わたしが両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥はわたしのように、地面（じべた）をはやくは走れない。
わたしがからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴はわたしのように、たくさんうたは知らないよ。
鈴と、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。

自分ができることも、相手ができることもそれぞれ素晴らしく、それらに優劣は無いということをこの詩は表現しています。学校という集団で生活していくには、それぞれの人が大切な存在であるということを忘れてはいけません。このことを踏まえ、いじめが無く、一人ひとりを大切に作る学校にするために、以下のことを児童に伝えました。

○大久保小学校は、いじめは絶対に許しません。

どんな理由であれ、他人(ひと)の嫌がることを言ったり、やったりすることはいじめです。いじめをする人間は卑怯者です。大久保小学校はいじめをする人を絶対に許しません。

○大久保小学校は、いじめを知っているのに、黙っている人も許しません。

他人(ひと)がいじめられているのに、助けてあげなかったり、知らん顔をしている人は、いじめをしている人と同じです。困っている人を見て黙っている人も許しません。

○困っていることがあったら、先生などの大人に相談しなさい。

自分がいじめられている、または、いじめられている人がいるのに「やめて」と言えない時は、先生や保護者など大人に相談しなさい。そうすれば、いじめられている人を助けることができます。困ったことがあったら、黙っていないで、大人に相談しなさい。

教職員、児童、保護者、地域の方々が一致団結し、大久保小学校をいじめのない学校にします。学校でも十分指導いたします。ご家庭でのご指導もお願いいたします。